

IGF 2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チーム第 41 回会合 議事録

ご注意：

- ご参加いただいた方はすべて 議事録にお名前とご所属が掲載され公開 されます。
- ご発言の際は以下をご了承の上ご発言ください。
 - 本会合での発言内容はすべて録音・録画されたうえで 発言録および録画が公開 されます。
- ビデオをオンにされますと、ミュートしていても顔映像が録画公開される場合があります。
- 参加者全員宛のチャットの内容も公開されます。

開催日時： 2023 年 10 月 30 日(月)17:00-19:08

開催場所： オンライン開催

主催： 一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

参加者（五十音順・敬称略）

姓	名	所属	田中	恵子	kcg.edu
青木	邦哲	株式会社 ASJ	西岡	洋子	駒澤大学
石田	壮一	NTT-BS	西潟	暢央	総務省
今井	正治	京都情報大学院大学	西山	伸夫	日本 IT 団体連盟
岩井	努	有限会社メディアロジック	長谷川	葵子	JAIPA
岡崎	一人	総務省	浜田	忠久	JCAFE
加藤	幹之	MK Next	洪	瑋廷	個人参加
上村	圭介	大東文化大学	前村	昌紀	JPNIC
河内	淳子	CFIEC	松平	直樹	網手順技研
木村	孝	JAIPA	望月	俊晴	総務省
Suga	Yuji	Internet Initiative Japan Inc.	森口	友里	株式会社インターリンク
高松	百合	JPRS	山崎	信	JPNIC
立石	聡明	JAIPA			

参加者数： 24 名

司会進行： 加藤 幹之

議事録作成：山崎 信

資料

1. [今後の検討方向について（加藤私案）](#)
2. [報告資料（暫定版）](#)

アジェンダ／議事

1. 本日の打合せの目的確認

- IGF 2023 ホスト(政府)からの報告
- IGF マルチステークホルダー諮問グループ(MAG)からの報告
- IGF 2023 に関する報告
- 日本 IGF タスクフォースからの報告
- 本チームの今後について

2. 前回議論の振り返り

- 第 40 回会合の概要：[第 40 回議事録](#)

3. 宿題の進捗確認

[IGF 2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チーム todo 一覧表](#)を参照のこと

4. IGF2023 ホスト（政府）からの報告 [10 分]

- 岡崎様よりご報告（[総務省報道資料](#)）
 - 現地参加者数が 6279 名となり史上最多となった。遠隔参加は同時接続数が最大 3000 以上あったが、正確な参加者数は数えられないため 3000 名以上とした。
 - 国連 IGF 事務局からも、過去の IGF の中で最高の成功だと高い評価を得た。
 - 岸田総理大臣からも現地に参加いただき開会スピーチと AI 特別セッションのキーノートスピーチとを行っていただいた。
 - 総務省からは鈴木総務大臣、渡辺総務副大臣、小森総務大臣政務官が現地参加。他に河野デジタル大臣、浮島智子衆議院議員（衆議院総務委員長）が現地参加。
 - 会場内は多種多様な参加者が入り混じった素晴らしい空間に見えた。
 - 会期中平日となってから日本人の若者を多数見た印象。IGF で刺激を受けて、将来そういうところ（国際舞台）に足を運ぶきっかけになればと思っている。
 - AI 特別セッションでは岸田総理大臣、鈴木総務大臣、グーグルとメタからも出席があり議論できた。生成 AI の議論にインプットができたと総務省・日本国政府としても考えている。
 - 事務室で会議運営全体と、メインホールの進行管理を行っていて参加者とほとんどご挨拶できずお詫び申し上げたい。
 - （参加者からのコメント）
 - 各国参加者より大変お褒めの言葉をいただいた。副大臣にはその旨伝えた。日本国民として誇れる IGF となったと思う。
 - 日本からの参加人数は思ったより多かったように思う。本チームに参加していないがセッションに関心を持って参加した人が結構いたのではないかな。そうい

った人たちを巻き込めたらよいと思った。

- Day 0 はあまり日本人の顔が見えないと思い大丈夫かと思ったが、Day 1 以降は多数現地に来た。同僚が指導している学生が国連関係の仕事を将来したいがどうしたらよいかという話をしていた、IGF の場にそういった学生を紹介できればよかったと後から思った。
- 史上最大の現地参加者数の割には会場内が混雑しておらずスムーズだった。
- IGF Village（ブース出展エリア）の半分は総務省データ通信課が担当し、参加者に認知はされたようである。展示に協力いただいた皆さんにはお礼を申し上げたい。

5. IGF MAG からの報告 [5 分]

- 会期中 MAG 会合が開催された。退任するメンバーに修了証を渡したようだ。
- MAG チェアは順番に所属ステークホルダーを変えているようで、今年で退任する MAG チェアはマイクロソフトのポール・ミッチェル氏（プライベートセクター）で、次期 MAG チェアはバハマ政府経済省のキャロル・ローチ氏となった。
- 会期中 IGF リーダーシップパネルとの意見交換を実施した。
- 今回は会場での機器トラブルが全くなく、絶賛された。
- 次回 MAG 会合は例年通りだとリモートで 1 月中旬にメンバー紹介するような会議を開催し、その後 1 月から 2 月にかけてリモート会議がもう 1 回開催され、次いで対面会議が 2 月～3 月に開催されることになるのではないかと思います。

6. IGF 京都 2023 の振り返り [20 分]

- セッション
 - メタバースセッションを Day 0 Presentation で開催した
 - 漫画海賊版セッションが開催された
 - ロボットのデモ付きのセッションが開催された
 - 日本らしさを出していけるような施策を今後計画しているか？
 - 日本らしさという切り口で話をすると、IGF らしい多様な議論の仕組みから逸脱してしまう気がした。
 - 日本がもっと出てこなければならぬところにより企画がたくさん出せてよかった。
- ユース
 - School of Internet Governance(SIG)を開始できてよかった。今年は月 1 回ペースで開催し、来年からどうするかは追って考えたい。
 - KCG グループで行った活動の報告（田中さん）[報告資料（暫定版）](#)
 - ユースの方に滞在施設を提供した。
 - IGF に参加が難しい学生・教職員向けに本学 2 ヶ所でリモートハブを提供した。
 - 今後キャパシティビルディングの継続を SIG を通じて行いたいと考えており、ハイブリッドで公開講座をやっているが、オープンコースウェアを視野に検討している。
 - JPNIC では若者向け IGF 参加支援プログラム（フェローシップ）を行い、3 名が参加し

た（山崎）。

- ブース

- JAIPA、JPNIC、京都情報大学院大学がブース出展
- 日本企業も多数ブース出展
- NRIs 共同ブースが出展
- G7 高崎（通信大臣会合）のブースを見た IGF 事務局がこういったものが IGF でも欲しい、と言ったため日本サイドでブース出展を募った。

- サイドイベント

- KCG グループで行った活動の報告（田中さん）[報告資料（暫定版）](#)
 - 10 月 6 日の当グループ 60 周年記念式典で、前国連 IGF 事務局長マークス・クマー氏と ICANN 理事アブリ・ドリア氏に特別講演頂いた。
 - 7 日には「これからのインターネットを担う若者のための SIG」というイベントを開催した。若者を前面に出す取り組みができたのではないかな。
 - 9 日にはノバルト・クライン氏の講演会を開催した。
 - 11 日には国内外の団体紹介と懇親会を開催し、12 日には JAIPA と共催でフェアウェルパーティを開催した。英語のパンフレットを作成し、日本のシビルソサエティの紹介をも行った。
- JAIPA/KCG 合同でサイドイベントを 6 つほど開催したが、参加者にはとても喜んでいただけた。

7. [日本 IGF タスクフォース](#)からの報告 [5 分]（前村）

- 一般企業の参画インセンティブについて考えていたがうまく設計できておらず、タスクフォースという形で活動するところに結びついていない。今後どうやって行くかは皆さんと一緒に考えたい。加藤さんから提案のあった、今後の国内の活動を作っていく体制に関与したい。
 - タスクフォースは活動として終了したのか？→解散はしておらず休止中と理解いただきたい。今後どのようにしていくのかは残課題。

8. 本チームの今後[30 分]

- [今後の検討方向について（加藤私案）](#)
- IGF 京都以降の国内での IGF 活動をどうするか、ということについて、活発化チームと日本 IGF タスクフォースと IGCJ（と IGF-Japan）を統合して一つにまとまって活動できないかと考えている。
- 独自の名前で会議を招集したり、寄付を受けられるような法的な仕組みを作るという意味でも法人化について議論したい。大掛かりにするのではなく数十万円で法人を維持できるので、できる範囲で限られた予算で継続するのがよいと思う。
- IGF 事前会合と報告会だけでなく、IG のサブスタンス／中身に関する勉強会なども開催したい。
- 事務局機能の一翼を担うため、一般財団法人国際連携推進センター(CFIEC)も JPNIC、JAIPA に加わることになるだろう。
- IGF 組織は NRI と読み替えてよいのか？→その通り、ただし IGF だけのために存在するのでは

なく、6.記載の通り IG 全般を広く扱える団体になる

- IGF 活動という言葉はここに入っていないが、IGF がさまざまな方向に広がっている中で、これらを全部追うのか。IG コアの部分、GDC への意見など、全部追いかけてやると大変。どこまで追えるのか、期待してよいのか。→すべてのことをやるつもりはなく、案件ごとにこれは対応するしないを決める。深くフォローすることになると部会を作って対応することになる。
- 上位レイヤーのカバーも行いたい。できる範囲で専門家の協力を仰いで調査することとしたい。すでに専門家の方々とは話を始めている。
- 活発化チームという名前を付けた位なので、それまでは活発ではなかったという前提で、この国(NRI)は真似したいなどのロールモデルはあるのか。G7 のステートメントでは今の IGF をサポートすると言っており、プッシュしているということだと思う。2026 年以降も IGF が継続すると仮定したい
 - ブラジルだと思う。今回の IGF にシビルソサエティの人が大勢来たこともあり、シビルソサエティがちゃんと入っているという意味で。来年 NETMundial+10 をやるという話もある。ネット中立性の法律が世界で最初にできたはずのチリもそうだと思う。
 - 法人化の際手弁当という点はその通りだと思うが、一方余裕がある人しか参加できないということになりがち。持続可能な事業のようなものも併せて走らせて、普段余裕がない人が足枷を取って参加できるようにするとよいのではないか。ブラジルは制度的にドメイン運営の何パーセントかを IGF 活動につぎ込む仕掛けとなっていると聞いた。
 - 欧州およびブラジルはモチベーションが高い組織、個人が多いと感じた。どうしたら企業団体と呼び込めるかの検討が必要。
 - ドイツ、フランスの NRI はしっかりしている。EuroDIG が最もよく組織化されているのではないか。
 - ブラジルを見習うということは、JPNIC をもっと大きくしてよいのか、あるいは総務省がもっとインターネットについて国内で関与してよいのか、という話とリンクするので、日本がそこになじまない部分はあると思った。ICANN 会議を観察していて、この 1 年でヨーロッパのプレゼンスがとても上がっている。DSA などが法律としてできている中で、米国とは別のやり方で規制重視で動いているように見える。国連 GDC 中のインターネットに関する部分の現状のアンチテーゼという意味では、今のインターネットにアンチテーゼがあるので活動に力が入ると理解している。日本は米国に最初のアーリーアダプターで付いて行ったので、国連 GDC でおかしくなるという話になると、日本もまじめに考えて物を言っていこう、それは米国をサポートするという言い方かもしれない。DFI（インターネットの未来に関する宣言）をいの一番にサポートした日本としては、そういう言い方になると思う。IGF との関わり方以外のインターネットに対する日本の見方として、どういう形でシビルソサエティが入ってくるかなど、全部を見切れているわけではないが、少なくとも議論としての端緒になるかと思う。異論歓迎する。
 - ICANN に来ている CGI.br やアルゼンチンの方々は、最初からインターネットをやっていた方がかなり前から関わってきているが、そういう方々が引退してきている。どこかに任せておくというわけにはいかず、特に政府には。そういうふうにはやってはいけないということに対する反省のような思いが強かったように見えた。日本の場合もう少し検証しないと、と思っているが、90 年代後半にインターネットが急速に広まり、

インターネットに接続することによる恩恵がどれだけあるか、そのために自分たちが手ごろな値段で使うためにはどうしなければいけないかを知っている人があまりいないというのが、インターネットに関する市民社会が育たなかった理由ではないかと思う。漫画村の時は、消費者団体の方たちとは阿吽の呼吸ですぐに声明を出せたりした。それはやはり戦争の反省ということをずっと思っている方が向こうにも我々の方にも結構まだまだいたためだと思う。

- JPNIC 肥大化の心配はやり方次第で、CGLbr と組織形態を同一にすることではなく、アウトリーチの仕方などを勉強したいと思っているということ。その一つの試みとして若者を引っ張り込むべく SIG をやっている。
 - チェアによる要約
 - 人々のモチベーションを上げる
 - 費用のめどをつける
 - 我々が着目する 이슈があるか
 - 日本の IGF 活動をもう一度活発化したい。8 項目の方向性で検討しようということにこの場で賛同いただければ、活発化チームの今後について継続検討ということでお願いしたいと思うがいかがか。立ち止まって何もできない状態に戻るのは残念なので、京都の盛り上がりを引き継いで仕組みとして続けたい。
 - 細部のコメントはどのようにしたらよいか？→個別に意見をいただくのもありだが、問題なければ[今後の検討方向について（加藤私案）](#)に記入していただきたい。
 - タスクフォースを運営しようとしていた立場から言うと、必要な人に関与していただくことは重要で、例えば WIDE プロジェクトの方はこの場にはいないような気がするが、そういった必要な人にちゃんと集まってもらって最初から議論に入れるというのはとても重要。
 - マルチステークホルダー(MSH)モデルが実際どうあるべきかについて、教えている学生から教えられたことがあり、オープンにしておけばいいのか、ということと、声を掛けるべき人がいるとすると声を掛けるべき人は誰かという話があると思う。それについて、関わっていないところをどこまでやるか、市民社会はどこまでなのか、について議論した方がよいと思う。
 - MSH と書くよりも、それを意味する内容を書いた方がよいのではないか。
- 前回（第 40 回）会合時の議論
- 活発化チーム活動の総括をした方がよいのではないか。
 - 参考：IGF 2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チームキックオフ会合 <https://japanigf.jp/topics/igf-2023igf-1>
こちらの「資料 3 日本におけるインターネットガバナンス関連活動の経験と課題」を、IGF2023 を含めた内容にアップデートするイメージ
 - マルチステークホルダーでの参加
 - 会費を集めてコストを回収するなどの検討を行ってはどうか
 - 日本の NRI がこれでいいのか、どう改めていくか
 - IGF2024 サウジアラビアを目指して活動していったらどうか
 - 何をやらなければならないかを整理する

- 開店休業中の既存団体との関係性、立ち位置を考えた方がよいのでは
- IG と IGF とを分けるべきか、IG に関わりたいのか IGF に関わりたいのか
- 前々回（第 39 回）会合時の提議（特に異議なし）
 - IGF 京都 2023 後について考えたい
 - 本活動は IGF 京都で終了するのではなく、将来が決まるまでは継続する
 - IGF 京都の報告会を実施したい
 - 継続に当たっては活発化チームの名前を変える必要がある。
 - 同時に運営方法も検討したい

9. 本日の議論を受けた Todo 確認 [5 分]

- [今後の検討方向について（加藤私案）](#) に各自コメントする（7 日間コメント期間、7 日間ラストコール期間）
- WIDE を含め色々な方々に声を掛ける
- IGF 報告会について、京都の内容を主に報告することにし、事前会合（日本インターネットガバナンスフォーラム 2023）プログラム委員メンバーと公募でメンバーを追加して検討する。次回会合では主なことを決めることとする。

10. 次回打合せについて[5 分]

- 次回アジェンダ（たたき台）
 - IGF 報告会について
 - 国内 IGF 活動の今後について
- 次回打合せの開催時期
 - 11 月 27 日(月)の開催とする

11. その他

以上